

知 恩 第31号

特集：会津・新潟慰霊旅行

かねてからの計画であった会津・新潟慰霊旅行を、2022(令和4)年7月1～2日に実施しました。

大森会長から実施報告が寄せられましたので、今号は特集として掲載します。



会津若松城(鶴ヶ城)天守閣



弥彦神社大鳥居付近から望む弥彦山



灰爪の丘に至る急坂



灰爪の丘供養塔

水戸殉難者恩光碑保存会 会津・新潟紀行

1. はじめに

2022(令和4)年7月1～2日、青天に恵まれ、水戸殉難者恩光碑保存会は会津・新潟慰霊旅行を行いました。旅行の結果を会長・大森より報告します。

この旅行は新型コロナの影響で2年延期となったため、3年越しでの実現でした。新型コロナが完全には落ち着いていない中、実施できて感無量です。振り返って見ると、新型コロナの第6波が落ち着き、第7波の感染拡大が始まる前の絶妙なタイミングでした。

旅行には水戸市から志田教育長を始め4名、恩光碑保存会から15名の総勢19名が参加しましたが、猛暑による病人もなく無事終了することが出来ました。関係したすべての皆様に感謝申し上げます。

2. 市村先生講話

行きのバスの中で市村先生に講話をしていただきました。まず先生のお話で興味深かったのは、先生が若い新聞記者の頃、「茨城人のルーツ」をお書きになった時のエピソードです。40年ほど昔のことで、その頃は個人情報もおおらかで、まずはお墓に行き、管理人からご子孫の連絡先を聞いて取材に行ったそうです。

いの一番は、水戸徳川家のご当主、徳川圀斉さん。当時徳川ミュージアムの奥にお住まいがありました。水戸家は普通マスコミの取材を受けないとのことですが、取材に応じたのは先生のお人柄でしょうか。圀斉さんは、自分のお名前が、水戸藩を代表する光圀公と斉昭公から一字ずつもらっており、荷が重くて嫌いだとおっしゃったとのことでした。

その後、藤田東湖、市川三左衛門、武田耕雲斎、結城寅寿などたくさん的人物のご子孫を取材されました。この経験を通じ、歴史、特に幕末の水戸藩に興味を持たれたとのことでした。

次に興味深かったのは、作家・吉村昭さんとのエピソードです。吉村さんは徹底的に取材をして小説をお書きになる方で、吉村さんが「桜田門外の変」の取材で、茨城県立図書館を訪れていた時、近くの茨城新聞社に立ち寄り、市村先生が対応されたことがお二人の出会いでした。

吉村さんはその後「天狗争乱」の取材でも度々水戸を訪れ、その度に市村先生とお酒を飲んだとのこと。市村先生は吉村さんに、「天狗争乱の後は、諸生党のことを書いてください。諸生党のことも書いて、幕末の水戸藩は完結します。」とお願いしたそうですが、吉村さんは承諾しないまま帰られ、二人の別れとなりました。

その後、吉村さんは癌を患い、闘病中に自らカテーテルを引き抜き自殺するという、壮絶な最後を遂げたことが報道され、市村先生は大変衝撃を受けられ、諸生党のことは自分で書くしかない、と決心されたそうです。そうして、2008年「市川勢の軌跡」、2015年「大志」をお書きになりました。「市川勢の軌跡」をお書きになる際は、毎週末地図を片手に自ら何千キロも運転して取材されました。

「市川勢の軌跡」は反響を呼び、この手の本としては異例の再版をしたそうです。「大志」は、先生が興味を持たれた大子の郷士の三男、黒崎雄二（大三郎）を主人公にした小説です。雄二は市川勢の転戦を生き延び、明治6年に渡米し、イギリスに渡り、明治17年に帰国しています。敗軍の一番身分の低い立場の者が、何故この時代に外国に行けたのか、興味が尽きないとのこと。雄二は、明治39年に史談会のインタビューで市川勢の転戦を証言しました（黒崎雄二君戊辰戦争経歴実談）。市川勢の唯一の貴重な資料です。HPで閲覧できます。

(http://www.onkouhi.site/Shidankaisokki_all_kurosaki.pdf)

灰爪の供養塔建立のエピソードも興味深いお話でした。昭和52年6月、灰爪の丘で荒木様が農作業中4体の骨が見つかり、刀傷などあったため水戸藩士の骨と推定されました。荒木様は供養塔を建てたいと思い、水戸市に陳情に来られたのですが、諸生党ということで、相手にされませんでした。それを聞いた市村先生が新聞記事に書いたことで70万円の寄付金が茨城新聞社に届き、荒木様は立派な供養塔を建てることができたのです。先生は除幕式（平成元年10月12日）も取材されました。記事をHPで参照できます。

(http://www.onkouhi.site/haidumeirehikiji_1989.10.13.pdf)

それから、150周年記念事業記念誌「埋もれし人々に光を」をテキストに、市川勢が水戸を脱出してから八日市場で最後を迎えるまでを詳しく講義していただきました。これにより参加者は基礎知識を付けて、現地に赴くことができたのです。「埋もれし人々に光を」もHPで参照することができます。

(<http://www.onkouhi.site/150kinen.pdf>)

市村先生に講義していただいたことで、しっかりとした研修旅行にすることができました。感謝申し上げます。

3. 会津若松城（鶴ヶ城）見学

旅行の1日目はまず鶴ヶ城を見学。諸生党が防衛に活躍した西出丸などを散策し、当時に思いを馳せました。鶴ヶ城は堅固な石垣のある非常に立派なお城でした。中世であれば難攻不落であったと思われます。しかしながら、戊辰の役では新政府軍はアームストロング砲といった近代兵器を持っており、これだけの城でも持ちこたえることは困難だったのでしょうか。降伏直後の天守閣の写真が残っていますが、大砲を打ち込まれて悲惨な状態になっておりました。



西出丸より天守閣



天守閣前にて

鶴ヶ城見学の後昼食を取り、白虎隊記念館前の鎮魂碑を参拝しました。この鎮魂碑は、元茨城県職員で郷土史家の来栖平造さんが発起人となり、2000年5月28日に建立されたものです。本来であれば、会津若松市、会津史談会を招待して、慰霊祭を行うところでしたが、新型コロナの影響によりお祀りはできないとのこと。やむなく参加者のみで、静かに参拝させていただきました。会津若松市の御計らいにより、鎮魂碑には献花がされておりました。



諸生党鎮魂碑



参拝する志田教育長

参拝後、私たちは白虎隊記念館を見学しました。記念館には、市川三左衛門の陣羽織が展示してあります。これはご子孫の市川弘勝氏より寄贈されたものなのですが、弘勝氏は水戸の博物館に寄贈しようとしたところ断られ、白虎隊記念館館長（現館長のご曾祖父様）がご友人であったことから、こちらに寄贈したとのこと。水戸人として、少し悲しい話です。また会津戦争当時の多数の鉄砲や大砲が展示されておりましたが、一早く近代兵器を取り入れた新政府軍に、旧幕府軍は太刀打ちできなかったことを実感しました。

5. 宝光院・戸崎留五郎（藩士）の墓参拝

宝光院は、弥彦神社に隣接するお寺です。藩士・戸崎留五郎は、慶應4年6月8日、馬頭見張りでの戦闘で負傷し、同僚に弥彦村まで担送されたのですが、療養の甲斐なくこの地で一生を終わりました。弥彦神社とつながる鬱蒼とした森の中にお墓はあり、恩光碑保存会として初めて参拝させていただきました。

ご住職は私共を気に入ってくださったようで、本堂や新潟県天然記念物の婆々杉を案内してくださいました。本堂には、元々は弥彦神社の神宮寺の本尊であった阿弥陀如来や、新潟県の重要文化財の多聞天立像、十二神将像、親鸞上人像などがあり、普段は公開していないなどと言いながら快く仏様を見せてくださいました。廃寺になったお寺の仏像を引きとってきたため、いろいろな宗派の仏様が祀られており、興味深いお寺でした。

婆々杉は樹齢千年、高さ40m、直径10mの大迫力で、強いパワーを放っており、圧倒されるものがありました。また、奥の細道行脚で芭蕉が宝光院に泊まったとのことで、芭蕉碑がありました。

「荒海や佐渡に横たふ天の河」



宝光院本堂



藩士・戸崎留五郎の墓



婆々杉



芭蕉碑



宿の大広間にて



弥彦神社の鳥居

6. 法福寺・佐藤図書の墓参拝

旅行2日目、寺泊・法福寺にある、家老・佐藤図書墓を参拝しました。図書のお墓には墓石がなく、石ころが4個あるだけです。それには次の経緯があります。

図書は慶応4年5月4日病状が悪化し、寺泊の菅沼平助という人の家の軒下に倒れ息を引きとります。菅沼家では菩提所法福寺の同家の墓域に遺体を埋葬してくださいました。しかし、同年10月25日、水戸藩の榊原彦之進ほかが寺泊に現れ、住職を脅して図書の首を水戸に持ち帰り、3日間晒されたということです。

そのような経緯から、水戸藩の仕打ちが怖くて墓も建てることができなかったのでしょう。心よりご冥福をお祈りいたします。



家老・佐藤図書の墓

7. 灰爪慰霊祭

7月2日の10時過ぎ、予定よりやや早めに灰爪に到着しました。35℃を超える猛暑でしたが、ありがたいことに灰爪集落では、集会所を休憩場所に提供し、冷たいお茶を振舞ってくださいました。集会所で、2022年より灰爪の史跡の管理を引き継いでくださる、灰爪町内会の会長野中様、副会長池田様にご挨拶をし、慰霊祭に臨みました。

北越戊辰戦争水戸藩戦没者慰霊式典

日時 令和4年7月2日 11:00～12:00

場所 柏崎市西山町灰爪669番地 灰爪の丘 北越戊辰の役戦没者供養塔の前



「敬称略」

斎主 水戸市鯉淵息栖神社宮司 岡見円礼

祝辞 奏上 宮司 岡見円礼

追悼文奉読 水戸殉難者恩光碑保存会会長 大森信明

々 水戸市教育委員会教育長 志田晴美

玉串拝礼

大森信明 水戸殉難者恩光碑保存会会長

志田晴美 水戸市教育委員会教育長

近藤喜祐 柏崎市教育委員会教育長

野中清孝 灰爪集落町内会会長

参列者一同 同時列拝

出席者

◆齋主 息栖神社 宮司 岡見円礼

◆参列者 ご氏名 敬称略



◆来賓

志田晴美	水戸市教育委員会教育長
小川邦明	水戸市教育委員会歴史文化財課課長
関口慶久	水戸市教育委員会歴史文化財課課長補佐
柿澤晟也	水戸市教育委員会歴史文化財課
近藤喜祐	柏崎市教育委員会教育長
野中清孝	灰爪集落町内会会長
池田諭	灰爪集落町内会副会長

◆水戸殉難者恩光碑保存会

大森信明	会長	神奈川県
市村眞一	顧問	水戸市
市川達也	副会長	神奈川県
成田行弘	幹事	水戸市
門井孝廣	幹事	水戸市
深谷益美	幹事	水戸市
弓削徳衛		水戸市
高阿田啓壽		水戸市
藺部峯元		水戸市



益子不二夫	水戸市
大森信宏	静岡県
小野瀬きよみ	ひたちなか市
結城千代子	東京都
結城明姫	東京都



猛暑の中、岡見宮司を斎主とし、水戸市より教育長の志田様他4名、柏崎市教育長・近藤様、灰爪町内会会長・野中様、副会長・池田様のご来賓に参加いただき、灰爪の丘の供養塔にて、4年ぶりに慰霊祭を行いました。

追悼文奉読の中で会長大森は、諸生党は一時賊軍とされたが名誉を回復していること、子孫である我々が藩士の意志を引き継いでいること、灰爪の丘の史跡の維持管理は灰爪町内会が引き継いでくれたこと、恩光碑保存会は灰爪町内会としっかりと交流したことなど、を報告させていただきました。

灰爪の丘では、2018年の水戸藩幕末維新150年記念事業にて、劣化した説明板を修復し、藩士が埋葬されている塚の前にお地蔵さんを建立しましたが、前回訪問時にはできておらず、今回初めて拝見しました。お地蔵さんは、前回訪問時に地元の尾崎様より、塚の前に水戸の石でつくったお地蔵さんを置いて戦没者を供養したいとのお話があり、稲田の石屋さんにつくってもらったものです。今回お地蔵さんと初対面し、感無量でした。

8. 長岡原の刑場址

慰霊祭の後、「角さんの台所」で灰爪町内会会長野中様、副会長池田様と昼食を兼ねた交流会を行い、北陸自動車道～北関東自動車道経由で帰途に就きました。高崎を通過した頃、夕方だというのに外気は34℃を示していました。2日間通して猛暑日でしたが、一人の病人もなく旅行を終えることが出来、本当に良かったです。

帰りは渋滞もなく順調で、予定より一時間早い、18時に帰ることができました。バスは高速を茨城町東インターで下り、6号国道の吉沢町の交差点を千波湖方面に曲がりました。そこはかつて、長岡原と呼ばれた処です。すると、旧水戸街道沿いの刑場址に祭壇のようなものが見えてきました。花が供えられています。

刑場址は他に目印があるわけではなく、非常にわかりにくい場所なのですが、前を通ったことから参加者に紹介することができました。長岡原を通ったのは全くの偶然であり、今回の旅行が、市川三左衛門様を始め、ご先祖様たちに守られて、滞りなく行えたように思えたのでした。今度、長岡原にお参りに行きたいと思いました。
以上

★編集後記

猛暑の中、慰霊と学びの旅にご参加くださった皆様、お疲れ様でした。また、ご多用の中、貴重なご講義をいただいた市村先生、志田教育長はじめ水戸市教育委員会の皆様、何より史跡をお守りいただき、訪問を快く受け入れてくださった各地の皆様方に改めて深く感謝申し上げます。

今後の本会の行事にも、現会員の皆様はもとより、ご家族、ご子孫の皆様に是非お声をかけていただき、会員としてたくさんの方々がご参加くださいますようお願いいたします。
(樹)

知恩第31号

発行日

発行所

発行人

作 成

2022年(令和4年)10月9日

水戸殉難者恩光碑保存会

大森信明

事務局 編集委員会